

# 一般財団法人川崎新都心街づくり財団定款

## 第1章 総 則

### (名称)

第1条 この法人は、一般財団法人川崎新都心街づくり財団と称する。

### (事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を川崎市麻生区に置く。

## 第2章 目的及び事業

### (目的)

第3条 この法人は、新百合丘を中心とする川崎新都心地域・麻生区の街づくり活動を促進し、街なみ環境の向上と新しい文化の創造を図ることによって、魅力ある都市文化ゾーンの形成に寄与し、もって川崎市の発展に貢献することを目的とする。

### (事業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 一 街づくりに関する資料の収集と提供及び援助等
  - 二 街づくりに関する調査研究及び講演会等の開催
  - 三 街づくりに必要な環境整備
  - 四 街づくりに関する文化活動の推進
  - 五 その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項第一号乃至第四号の事業は、実施事業とし、神奈川県内において行う。

## 第3章 財産及び会計

### (事業年度)

第5条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

### (事業計画及び収支予算)

第6条 この法人の事業計画書及び收支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置くものとする。

(事業報告及び決算)

第7条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後3箇月以内に、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受け、理事会の承認を経て定時評議員会に提出し、第1号から第3号の書類についてはその内容を報告し、第4号から第7号までの書類については承認を受けなければならない。

- 一 事業報告
  - 二 事業報告の附属明細書
  - 三 公益目的支出計画実施報告書
  - 四 貸借対照表
  - 五 正味財産増減計算書
  - 六 貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書
  - 七 財産目録
- 2 前項の書類のほか、監査報告を主たる事務所に5年間備え置くものとする。これらのうち公益目的支出計画実施報告書については、一般の閲覧に供するものとする。
- 3 第1項の規定により報告又は承認された書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、個人の住所に関する記載を除き一般の閲覧に供するものとする。
- 一 監査報告
  - 二 理事及び監事並びに評議員の名簿
  - 三 理事及び監事の報酬等の支給の基準を記載した書類
  - 四 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類
- 4 定款については、主たる事務所に備え置くものとする。
- 5 貸借対照表は、定時評議員会の終結後遅滞なく、公告しなければならない。

(公益目的取得財産残額の算定)

第8条 理事長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第48条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第3項第4号の書類に記載するものとする。

第4章 評議員

(評議員)

第9条 この法人に、評議員3名以上7名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第10条 評議員の選任及び解任は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律(平成18年法律第48号)第179条から第195条までの規定に従い、評議員会の決議をもって行う。

- 2 評議員を選任する場合には、次の各号の要件をいずれも満たさなければならない。
- 一 各評議員について、次のイからヘに該当する評議員の合計数が評議員の総数の3分の1を超えないものであること
- イ 当該評議員及びその配偶者又は3親等内の親族
  - ロ 当該評議員と婚姻の届出をしていないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者
  - ハ 当該評議員の使用人
  - ニ ロ又はハに掲げる者以外の者であって、当該評議員から受ける金銭その他の財産によって生計を維持しているもの
  - ホ ハ又はニに掲げる者の配偶者
  - ヘ ロからニまでに掲げる者の3親等内の親族であって、これらの者と生計を一にするもの
- 二 他の同一の団体(公益法人を除く。)の次のイからニに該当する評議員の合計数が評議員の総数の3分の1を超えないものであること
- イ 理事
  - ロ 使用人
  - ハ 当該他の同一の団体の理事以外の役員(法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものにあっては、その代表者又は管理人)又は業務を執行する社員である者
  - ニ 次に掲げる団体においてその職員(国会議員及び地方公共団体の議会の議員を除く)である者
    - ① 国の機関
    - ② 地方公共団体
    - ③ 独立行政法人通則法第2条第1項に規定する独立行政法人
    - ④ 国立大学法人法第2条第1項に規定する国立大学法人又は同条第3項に規定する大学共同利用機関法人
    - ⑤ 地方独立行政法人法第2条第1項に規定する地方独立行政法人
    - ⑥ 特殊法人(特別の法律により特別の設立行為をもって設立された法人

であって、総務省設置法第4条第15号の規定の適用を受けるもの（  
いう）又は認可法人（特別の法律により設立され、かつ、その設立に  
関し行政官庁の認可を要する法人をいう）

- 3 評議員には、理事のいずれか1名と親族その他特殊の関係がある者又は評議員の  
うちいずれか1名及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が評議員総数  
の3分の1を超えて含まれてはならない。
- 4 評議員には、監事及びその親族その他特殊の関係がある者が含まれてはならない。
- 5 評議員はこの法人又はその子法人の理事、監事又は使用人を兼ねることができな  
い。

（評議員の任期）

- 第11条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに  
関する定時評議員会の終結の時までとする。また、再任を妨げない。
- 2 前項の規定にかかわらず、任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任され  
た評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。
  - 3 評議員は、第9条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任によ  
り退任した後も、新たに選任された評議員が就任するまで、なお評議員としての権  
利義務を有する。

（報酬等）

- 第12条 評議員は無報酬とする。ただし、特別な職務執行の対価として報酬を支給  
することができる。その額は、毎年総額50万円を超えないものとする。
- 2 前項の規定にかかわらず、評議員には費用を弁償することができる。

## 第5章 評議員会

（評議員会）

- 第13条 評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

（権限）

- 第14条 評議員会は、次の事項について決議する。
- 一 評議員の選任及び解任並びに理事及び監事（以下「役員」という。）の選任及  
び解任
  - 二 理事及び監事の報酬等の額
  - 三 貸借対照表及び正味財産増減計算書及びこれらの附属明細書並びに財産目録  
の承認

- 四 定款の変更
- 五 事業の全部又は一部の譲渡
- 六 残余財産の帰属の決定
- 七 その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第15条 評議員会は、定時評議員会として毎事業年度終了後3箇月以内に1回開催するほか、臨時評議員会として必要がある場合に開催する。

(招集)

第16条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対して、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(議長)

第17条 評議員会の議長は、理事長とする。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、副理事長が評議員会の議長となる。

(決議)

第18条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- 一 監事の解任
- 二 定款の変更
- 三 その他法令で定められた事項

3 評議員、理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。

(決議の省略)

第19条 理事が評議員会の目的である事項につき提案した場合において、当該提案につき評議員(当該事項について議決に加わることができるものに限る。)の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の評議員会の決議があったものとみなす。この場合においては、その手続を第16条

第1項の理事会において定めるものとし、第17条から前条までの規定は適用しない。

(議事録)

第20条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長は、前項の議事録に記名押印する。

第6章 役員

(役員の設置)

第21条 この法人に、次の役員を置く。

- 一 理事 3名以上11名以内
- 二 監事 3名以内
- 2 理事のうち1名を理事長とし、理事長以外の理事のうち1名を副理事長とする。
- 3 理事長及び副理事長以外の理事のうち5名以内を一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律第48号）第197条で準用する同法第91条第1項に規定する業務執行理事（理事会の決議により法人の業務を執行する理事として選定された理事をいう。以下同じ）とすることができる。
- 3 第2項の理事長及び副理事長をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律第48号）に規定する代表理事とする。
- 4 第3項の業務執行理事のうち1名を専務理事とすることができる。

(役員の選任)

第22条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長、副理事長、専務理事及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。
- 3 監事は、この法人又はその子法人の理事又は使用人を兼ねることができない。
- 4 理事には、理事のうちいずれか1名及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 5 監事には、この法人の理事及び評議員並びにこの法人の使用人が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係があつてはならない。

(理事の職務及び権限)

第23条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。
- 3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、その職務を代行する。
- 4 業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。
- 5 理事長、副理事長及び業務執行理事は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

- 第24条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。
- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況を調査することができる。

(役員の任期)

- 第25条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結のときまでとする。
- 2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結のときまでとする。
  - 3 前2項の規定にかかわらず、任期の満了前に退任した理事又は監事の補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了するときまでとし、増員により選任された理事は現任者の残任期間とする。
  - 4 理事又は監事については、再任を妨げない。
  - 5 理事又は監事が第21条に定める定数に足りなくなるとき又は欠けたときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、それぞれ新たに選任された理事又は監事が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員の解任)

- 第26条 役員が次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。
- 一 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき
  - 二 心身の故障のため職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき

(報酬等)

- 第27条 役員は、評議員会において定める総額の範囲内で、報酬等の支給の基準に

従って算定した額を報酬等として支給することができる。

2 前項の規定にかかわらず、役員には費用を弁償することができる

(損害賠償責任の免除)

第28条 この法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律第48号）第198条で準用する同法第114条第1項の規定により、任務を怠ったことによる理事又は監事（理事又は監事であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において理事会の決議によって免除することができる。

2 この法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律第48号）第198条で準用する同法第115条第1項の規定により、非業務執行理事等との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結することができる。ただし、当該契約に基づく責任の限度は、同法第198条で準用する同法第113条で定める最低責任限度額とする。

## 第7章 理事会

(理事会の設置)

第29条 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第30条 理事会は、次の職務を行う。

- 一 この法人の業務執行の決定
- 二 理事の職務の執行の監督
- 三 理事長、副理事長、専務理事及び業務執行理事の選定及び解職

2 この法人が保有する株式について、次の事項を除き、その株式の発行会社に対して株主等としての権利を行使しない。

- 一 配当の受領
- 二 無償新株式の受領
- 三 株主割当増資への応募
- 四 株主宛配付資料の受領

(招集)

第31条 理事会は、理事長が招集するものとする。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(議長)

第32条 理事会の議長は、理事長とする。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、副理事長が理事会の議長となる。

(決議)

第33条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、理事が理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、理事の全員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）が当該提案について書面により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する理事会の決議があつたものとみなす。ただし、監事がその提案に異議を述べたときはこの限りでない。

3 理事又は監事が、理事及び監事の全員に対して理事会に報告すべき事項を通知したときは、当該事項を理事会へ報告することを要しない。

4 前項の規定は、第23条第5項に規定する報告については適用しない。

(議事録)

第34条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した代表理事及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

3 第1項の規定により作成した議事録は、主たる事務所に10年間備え置かなければならない。前条第2項の規定により作成した理事会の決議の省略の意思表示を記載した書面についても同様とする。

## 第8章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第35条 この定款は、評議員会の決議によって変更することができる。

2 前項の規定は、この定款の第3条及び第4条並びに第10条についても適用する。

(解散)

第36条 この法人は、令和8年3月31日に解散する。

(公益認定の取消し等に伴う贈与)

第37条 この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、

評議員会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から 1箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成 18 年法律第 49 号）第 5 条第 17 号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

（剰余金の処分制限）

第 38 条 この法人は、剰余金の分配をすることはできない。

（残余財産の帰属）

第 39 条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、国若しくは地方公共団体又は公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成 18 年法律第 49 号）第 5 条第 17 号に掲げる法人であって租税特別措置法第 40 条第 1 項に規定する公益法人等に該当する法人に贈与するものとする。

## 第 9 章 公告の方法

（公告）

第 40 条 この法人の公告は、官報に掲載する方法とする。

2 前項の規定にかかわらず、第 7 条第 5 項の公告に代えて、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成 18 年法律第 48 号）第 199 条において準用する同法第 128 条第 3 項の規定によって、インターネットによる貸借対照表の開示を行うことができる。

## 第 10 章 事務局その他

（事務局）

第 41 条 この法人に事務局を置き、法令で別段の定めがある場合を除き、職員の任命は理事長が行う。

2 事務局の組織、内部管理に必要な規則その他については、理事会が定める。

（委任）

第 42 条 この定款に定めるもののほか、この定款の施行について必要な事項は、理事会の決議を経て、理事長が定める。

（顧問及び相談役）

第 43 条 この法人に顧問及び相談役を置くことができる。

- 2 顧問及び相談役は、理事長が委嘱する。
- 3 前項に定めるもののほか、顧問及び相談役に関し必要な事項は、理事会の決議を経て理事長が定める。

#### 附則

1. この定款の改正は、平成27年6月24日から施行する。
2. 前項の規定に関わらず、第8条（公益目的取得財産残額の算定）及び第37条（公益認定の取消し等に伴う贈与）は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成18年法律第49号）第4条に規定する公益認定を受けた日から施行する。
3. この定款の改正は、令和2年6月19日から施行する。
4. この定款の改正は、令和7年6月10日から施行する。